



# 加納典明 写真展

NEW YORK 1969

会場：ギャラリー イー・エム 西麻布

会期：2014 年 10 月 28 日（火）～ 11 月 14 日（土）

時間：12:00 ～ 18:00（日・月曜日休館）入場無料

住所：東京都港区西麻布 4-17-10

電話：03-3407-5075

※トークイベント 10 月 31 日（金）18:00 ～ 20:00（参加費：1,000 円）

この撮影に平凡パンチの編集者として同行した石川次郎氏をゲストに加納典明氏と対談致します。

1960 年代のエスプリを感じてもらえればと思います。

作品内容：1969 年夏の終わりに平凡パンチで New York 特集号を作ると言うことで、編集者石川次郎、イラストレーター小林泰彦と私が NY に向かった。1\$ が ¥365、海外持ち出し金額 1 人 500\$ の時代であった。当然ロケフィーは其れで済む訳も無く・・・次郎、どうしたんだろう。

撮影は若き 3 人組怖いもの知らずでパーミット無しのゲリラ撮影。今でも若いとは云えよくやったと思う撮影行だった。

セントラルパーク、エンパイアステートビル、ブルックリンブリッジ、ハーレム、ウォール街、ブルックリン、地下鉄等々、全てヌードモデル撮影で、ビジネスマンが行き来するニューヨーク証券取引所近くだったか五叉路の信号の真ん中で、裸にコートや羽織っていたモデルにサインを出し素裸にさせて 2、3 本撮りまくり、待たせてあった車に飛び乗り・・・真昼のランチタイム、ウォール街を通りかかるビジネスマンの顔が浮かぶ。夜、ヘリコプターにヌードモデルを乗せ、モデル越しに眼下のマンハッタンを撮り込もうとしことも有ったな。ヘリのパイロットが何度か後ろを振り返っていたのを思い出す。何れにしる殆どの場所に少なからず人は居てスリル溢れる撮影だった。次郎は英語を話しフットワーク最高で、とても私だけでは立ち行かぬ仕事だった。パンチの撮影が一段落して、「何か撮ってきますよ！」と約束してあった東京の GALLERY のために、当時 NY 在住の写真家タッド若松の話から、30 代後半だった草間彌生のパフォーマンスを始め、あらゆる性のパターンを撮った。これは後に私が世に出る切っ掛けとなった個展《FUCK》である。

次郎達は先に帰ったと記憶しているが、其れ等の合い間合い間に皆んなでセントラルパークや 5 番街等を散策した折に、目的も無く拾って行った写真、所在さえ忘れていた（他にも或る無いに聞らず数多ある）此らの写真を、今初めて個展として、ギャラリー EM 西麻布の竹内さんが催してくれました。（敬称略）

加納典明